



文責 辻 新造

2025 Dec. ▶ 2026 Jan.

のせの教育の魅力を伝えていきます

教育長だより

#1 | 年頭にあたり



新年も明け大寒を迎えました。

一年で最も寒さの厳しい時期に武道や水泳などの稽古を行うことを寒稽古といいます。寒さに耐える体力とともに精神力を養うのにも最適な季節となりました。厳しい寒さが続きますが、皆様どうぞお体にお気をつけてお過ごしください。

今年の干支は「午（うま）」です。勢いよく駆ける馬の姿は、エネルギーに満ちあふれ、物事が最高潮に達する象徴といわれています。本町の教育行政もこの馬のように、困難を軽やかに飛び越え、未来へ向かって真っ直ぐに突き進む一年にしてまいります。

お正月に、能勢町内の神社仏閣を巡ってまいりました。門松が立ち、しめ縄が新調され、供え物が丁寧に整えられていました。初詣の参拝客を温かく迎えるための準備を拝見し、深い感動を覚えました。

長い年月、地域の方々が手を取り合い、汗を流し管理され、今もなお町内に多くの名所旧跡が美しく残されているのは、「郷土を守る精神」郷土愛そのものです。

厳しい寒さの中ですが、心の中には昨秋の熱い祭りの風景が今も鮮やかに残っています。今回は「山辺の獅子舞」にスポットを当てます。

#2 | 400年綿々と受け継がれる「山辺の獅子舞」



国内外から多くの人が訪れた大阪関西万博。それぞれの心の中に幾つもの思い出が刻まれたことと思います。

9月10日、大阪府主催「未来へ紡ぐ豊かな大阪の海・山・農空間」ステージイベントにおいて能勢の無形文化財「[山辺神社の獅子舞](#)」が披露され、多くの来場者を魅了しました。

この晴れ舞台に立つまで、7月から本番前日まで稽古に励んでこられました。平日の夜、仕事が終わってから青年会の方々が集まり、先輩から若手へ熱心に稽古をつける。地域の役員が傍らで温かく見守る。この連帯感が400年前より綿々と受け継がれてきた所以と感じました。

獅子舞・囃子が一体となり、幻想的に舞う、「山辺の獅子舞」は、未来に引き継ぐべき能勢の宝です。

#3 | 山辺地域が一体となる「山辺神社の秋祭り」



二日目の夕刻、祭りはクライマックスを迎えます。山辺神社の境内で獅子が「剣の舞」を奉納されます。優雅な「散所の舞」とは一変し、空気は重々しく、激しいリズムに包まれます。魔物との戦い、悪魔祓いを表現するその舞は、荒々しくまさに生命力の爆発を感じます。

これを支えるのも、地域の中核を担う30代・40代の方たち。彼らの打ち鳴らす太鼓と笛の音が獅子を鼓舞し、観客を圧倒します。夕闇の中、勇壮に舞う獅子の姿は、見る者の魂を揺さぶります。



#4 | ブルーシートの上に広がる「帰るべき場所」

祭りの後、思わぬお誘いをいただきました。「役場の方がうちの祭りに来てくれたんは初めてや。さあ、一緒に上がってお祝いしよう！」

上山辺公民館の広間。ブルーシートの上に料理が並ぶ活気溢れる直会（おおらい）。そこには、最高の笑顔がありました。「先生、久しぶり！」と声をかけてくれる教え子。体育連盟で共に汗を流した先輩。地元を守る人はもちろん、この日のために街から帰ってきた若者の姿もありました。

そこに住んでいるか否かに関わらず祭りで一つになる。住んでいなくても祭りを盛り上げ地域を支える。そんな「関わりしろ」が、この地域には存在します。この盛り上がりこそが、関係人口の中にある実際に動いてくれている人々の力、まちづくりの大きなヒントになると確信しました。

山辺神社の秋祭りは、二日間に亘り執り行われます。初日は、山辺神社から御旅所のある稻荷神社まで神輿、太鼓台が練り歩きます。

稻荷神社につながる参道は、大人でも足がすくむような凄まじい急勾配です。この急勾配を、神輿や重い太鼓台が上がります。40人もの若衆が力強い掛け声とともに一気に担ぎ上げる姿は、まさに圧巻です。

一行が息を整えた後、社の前で獅子が「散所の舞」を奉納されます。今度は子どもを乗せた太鼓台だけが急坂を下っていきます。誰一人、怪我の無いよう周囲を警護する20人の警護役を含め、一瞬の油断も許されない真剣勝負、まさに圧巻の一言です。



この秋祭りは、担ぎ手以外の役割が完璧に決まっていることに驚かされます。神輿を導く提灯持ち、篝火周辺で火を絶やさぬよう目配りする係。そして、祭り前には「砂持ち」の方が稻荷神社の整備をされていると伺いました。二日間の祭りを温かく見守り支える地域の方々。

「主役」の背後には、地味だけれど欠かすことのできない役割を全うする人々がいる。その一体感に、能勢のコミュニティの底力を感じました。

「砂持ち」…神社の清掃作業として、区の班の方々が毎年輪番により行われています。





【参考】町史に見る山辺神社の秋祭り

山辺神社の秋祭りは、かつては10月9日を宵宮、10日を本祭りとして執り行われてきました。その歴史と伝統を象徴する主な特徴は以下の通りです。

- ・ **祭りの準備と若者の奉仕** 10月1日になると、獅子舞を担う若衆や、太鼓台に乗る小学1年生の男子らが練習に入ります。かつては8日に「荒神祓い」として獅子が各家を回る行事もありました。
- ・ **勇壮な練り歩きと装束** 宵宮では、晴れやかな装束を纏ったはやし手や、白の上下に法被姿の青年会員が神輿と太鼓台を担ぎます。「ヨイート、ヨイト、どんでんどんどん」という威勢の良い囃子とともに、黄金色の稻田の間を練り歩く姿は、能勢の秋の風物詩です。
- ・ **「お旅所」への急坂と神事** 上山辺の稻荷山にあるお旅所へ神輿を担ぎ上げ、遷座した後に獅子舞(散所の舞)を奉納します。本祭りでは神輿と太鼓台が村内を巡った後、夕闇の中で提灯が灯る頃に神社へ還り、最高の盛り上がりを見せます。
- ・ **静と動の「獅子舞」** 祭りの締めくくりに舞殿で披露される獅子舞には、二つの対照的な舞があります。
散所の舞：笛や歌に合わせた優雅で穏やかな舞。
剣の舞：剣を持ち、天魔(悪魔)と戦う荒々しく凄まじい獅子の姿を表した舞。

この伝統行事は、昭和60年当時の記録にも「未来に引き継ぐべき姿」として克明に記されています。

#5 | 能勢の未来を創る「次期教育大綱」策定の歩み

能勢町のこれから教育のあり方を定める「次期教育大綱」の策定に取り組んでいます。

第3回会議（11月27日）では、能勢ささゆり学園開校から10年が経ち、これまでの教育を振り返り、これから取り組むべきことを整理しました。特に学力向上における「活用」の視点や、教育と福祉の連携、新生涯学習センターを通じた地域活性化など、多角的な視点で議論が交わされました。

次回会議（令和8年1月29日予定）では、これまでの議論を形にした「教育施策の方針（案）」および「代表施策の方向性（案）」を協議します。

本町の教育の柱を決める重要なステップとなります。最終的な大綱づくりに向けて、着実に議論を重ねてまいります。

なお、各会議の詳しい議事録や資料は、[能勢町ホームページ](#)で公開しています。私たちの町が目指す教育の姿を、ぜひご覧ください。

「伝統を守る」ということは、単に形を残すことだけではありません。そこに行けば誰かがいて、誰もが「帰りたくなる熱量」があること。それこそが、私たちが未来に繋ぐべき「能勢の宝」なのだと再確認しました。

2026年は、能勢頼次公の没後400年という大きな節目です。私たちも、干支の「午」のように、この町の未来へ向かって力強く駆け抜けてまいりましょう。

令和7年 第3回総合教育会議

とき 令和7年11月27日 午後2時30分から
ところ 能勢町役場本館第2会議室

【次 第】

1. 教育施策の現状整理について

2. 教育施策の課題の深掘りについて

3. その他

... 資料 ...

資料1 平成28年度～令和6年度 点検・評価結果まとめ 平成28年度～令和6年度 点検・評価結果 総括資料 能勢ささゆり学園の10年間の学校運営に対する評価 教育施策の課題の深掘り資料